

令和8年度 長野県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果について

学びの改革支援課

【前期選抜】

- 1 受検者総数 5,463 人(－428 人)
- 2 検査結果 () 内は前年度数値、平均点についてはその増減

検 査	検 査 I (国語、社会、英語)	検 査 II (数学、理科)
平 均 点	91.44(120 点中) (93.98,-2.54)	58.43(80 点中) (59.48,-1.05)
200 点(満点)の人数	173 (178)	

【後期選抜】

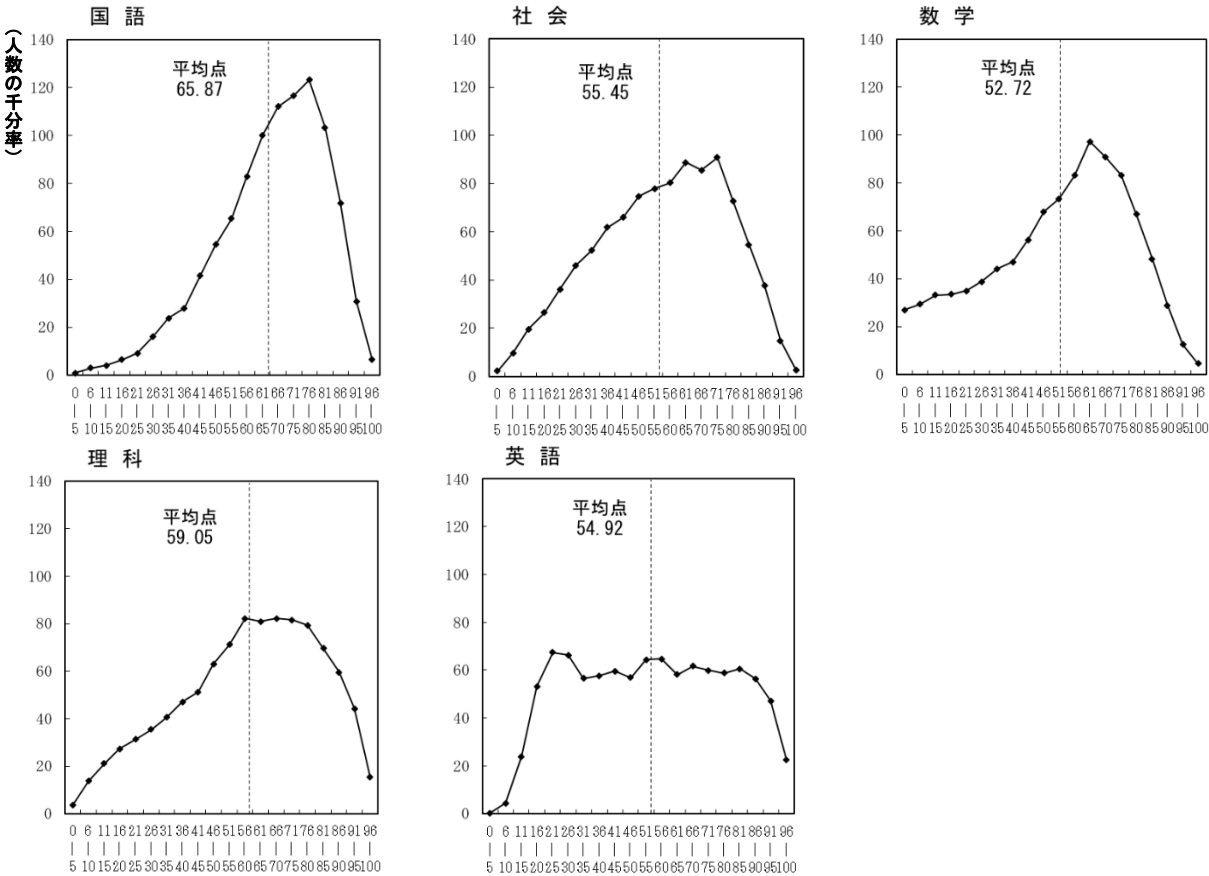
- 1 受検者総数 7,918 人(－484 人)
- 2 教科別結果 () 内は前年度数値、平均点についてはその増減

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語
平 均 点	65.87 (59.54, +6.33)	55.45 (70.04, -14.59)	52.72 (58.45, -5.73)	59.05 (54.36, +4.69)	54.92 (59.23, -4.31)
100 点の人数	5 (2)	1 (45)	9 (8)	26 (3)	36 (27)
標準偏差*1	17.4 (16.8)	20.6 (18.7)	23.0 (23.5)	22.4 (21.4)	24.1 (21.6)
変動係数*2	0.26 (0.28)	0.37 (0.27)	0.44 (0.40)	0.38 (0.39)	0.44 (0.36)

*1:数値の分布の散らばり具合(ばらつき)を表すもの。標準偏差が大きいと、平均値のまわりの数値の分布の散らばりが大きい。

*2:平均値に対して標準偏差がどの程度の比率になるかを示すために、標準偏差を平均値で割ったもの。平均値が異なっても散らばり具合を比較できるように補正した値。格差が拡大すると変動係数が上昇し、格差が縮まると変動係数は下降する。

3 教科別得点分布グラフ(グラフ中の縦の点線は平均点)



4 入学者選抜学力検査問題に対する高等学校、外部評価者・中学校からのご意見

(1) 前期選抜

①高等学校

- ・基本的な力の把握が可能。難易度に関しては、実施校によって異なる意見となった。

②中学校

- ・基礎学力の定着を把握する出題として適切である。

(2) 後期選抜

①高等学校

- ・一定の学力把握機能はあるが、記述問題が多いことによって、解答が多様化するため、採点基準の明確化をより一層図って欲しい。

②外部評価者・中学校

- ・教科書で学習した内容を中心に、基礎・基本を押さええていれば対応できる問題が多く、授業とのつながりが感じられる構成であった。
- ・各教科を通じて、知識の量的把握にとどまらず、思考力、判断力、表現力を総合的に評価する工夫がされている。
- ・教科によっては、3年の内容が多く出題されていると感じられ、全学年をバランスよく評価するという点で改善の余地がある。

5 考察・今後の対応について

(1) 前期選抜

- ・高等学校及び中学校からの意見から、「学習指導要領に沿って、各教科の分野、領域における基礎的・基本的な内容を出題」という方針に沿った出題であったと考える。
- ・今後も出題方針に沿った問題となるよう、引き続き工夫する。

(2) 後期選抜

- ・高等学校、外部評価者・中学校の意見から、概ねバランスの取れた問題であったと考える。
- ・育成を目指す資質・能力を適切に評価できる問題となるよう、問題数、文字数等のバランスにも配慮しながら、引き続き工夫する。
- ・入学者選抜の資料としてより適切なものとなるよう、知識を活用する問題の工夫や記述問題の出題方法、問題の難易度について、引き続き研究する。